

タイトル	退屈、茶道、ナズナの花
ポーランド語のタイトル	Nuda, droga herbaty i kwiat nazuny
テーマ *	b
名前	アンジェイ ナヴァラヌィ
ポーランド語の名前	Andrzej Nawalany
学校名 * 2	ワルシャワ大学日本学科
学年	修士 1 年生

皆さん、今日は皆さんに伝えたいことが一つあります。でも皆さんは聞いて下さるでしょうか。もうスマホをみている方はいませんか。まだ携帯電話を出していない一握りの方々に、現代の若者の新しい敵、「退屈」についてお話ししたいと思います。

21 世紀に生きる若者は、両親や祖父母が想像もつかなかったような世界を体験しています。優れた機能のついた携帯電話、軽くて薄いパソコンなど、昔は考えられなかったものです。しかし現代の若者はその素晴らしさに気づかないどころか、退屈さえ感じているようです。

例えば映画を見る時、最初の 10 分で爆発とか人を殺す場面がないと、若者はすぐ帰りたくなります。また、せっかく入った大学でも講義中に携帯を取り出してゲームをやったりしています。刺激に囲まれた若者はさらに刺激的なことをやらないと退屈を感じてしまいます。このエンターテインメントの世界は、日常生活の楽しさをすっかり奪ってしまったようです。

しかし、日本の文化を勉強した私は、日常の楽しみというものを忘れることはありませんでした。それは、茶道というものに会ったおかげです。実は、茶道は、まさに退屈そのものの世界です。素朴で飾り気のない部屋でお茶を飲むことが、どうして面白いと言えましょうか。私も初めはそう思っていました。

ところがある日、先生が棗のふたを見るようにおっしゃいました。棗というのは抹茶を入れておく小さな入れ物のことです。その時私は、金色に輝く竹の模様の棗を持っていたので、そのまま単純に、このキラキラ光る飾りを眺めていました。すると先生は「ふたの裏側を見てください」とおっしゃるではありませんか。そこで、ふたを裏返してみると、きれいにそろった細かい木目が漆の下からのぞいていました。ふたの裏にこんな美しいものが隠れていたとは！私はこれまでの人生で、どれだけこんなにきれいなものを見逃してきたんだろうと思いました。そしてこの時、この質素で何の飾り気もない茶室が、実は、他のものに気を取られることなく、普段は気づかない隠された宇宙を発見するための装置だったことが分かりました。

松尾芭蕉は道端に咲く花の美しさにふと立ち止まり、「よく見ればナズナ花咲く垣根かな」と詠みました。今、このような俳句が詠める若者は、一体どれほどいるのでしょうか。スマホの画面から目を転じてみれば、皆さんも気づくと思います。美しいもの、面白いものはどこにでもあります。皆さん、退屈を嘆く代わりに、自分の人生で、「あなたにとってのナズナ」の花を見つけてみてください。